

男女共同参画のモデル県をめざして

鳥取県知事 平井伸治氏

本日は元気な女性の皆さんが、全国からここ鳥取県は倉吉市にお集まりいただき、「北京 JAC」の研修セミナーを開催されますことを、まずお祝い申し上げます。地元からも本当に元気な顔ぶれが大勢来られています。さぞ活発で楽しみな二日間のセミナーになることと思われま

さて、鳥取は小さな県ですが、できることはたくさんあります。男女共同参画推進全国1になりました。先ほど、清水澄子代表もおっしゃいましたが、これは決意と行動の結果なのです。どうして東京や大阪、福岡の大都市ではなく、鳥取なのかを、このセミナーを通して、ご理解いただければ、私の役割も果たせるかなと思います

ただいま、ロンドンオリンピックの真っ最中ですが、女性の活躍が目立ちます。ちょっと前までは「オグシオ」と言っていましたが、今は「フジカキ」です。バトミントンの藤井・垣岩コンビが銀メダルを取ったという報が入りました。この鳥取県でも琴浦町出身の川中香緒里さんがアーチェリーで銅メダリストに輝きました。鳥取県史上二人目のメダリストの誕生です。なにかと話題の多いオリンピックですが、もうひとつ画期的なことがあります。女子マラソンがオリンピック種目になったのは1984年ですが、ロンドンは、全ての種目に女性が出場する初の大会だそうです。男女共同参画の見本のようなですね。

鳥取の話題をもうすこしご紹介します。「元始、女性は太陽であった」は、女性解放の原点となった文芸誌『青鞥』を創刊した平塚らいてうの言葉ですが、彼女を後押しした生田長江という文筆家がありました。彼は鳥取県の西のほう日野町の出身です。『青鞥』は鳥取県にルーツがあるわけです。

童謡「赤とんぼ」をつくった三木露風の母、碧川かたも鳥取出身で、婦人参政権への道を拓いた方です。鳥取県産婆会のリーダー、田中たつは命の大切さを訴え、鳥取県初の女性代議士になりました。鳥取県連合婦人会の初代会長の田中花子さんは鳥取県初の女性県議会議員です。中田正子さんは日本初の女性弁護士で、鳥取県弁護士会会長の要職も務められました。また戦後、澤田美喜さんはエリザベスサンダーホームを設立し2000人も混血孤児をお世話されました。鳥取出身の外交官、澤田廉三さんと結婚された方で、この季節になるとホームの子どもたちを県東部の熊井浜に連れてきて、喜びに浸ったと伝えられています。

このように鳥取県をルーツにする多くの先駆者が女性進出の道を拓き、男女共同参画

の社会を築いてこられました。その帰結として鳥取が東北大学の研究グループによる調査で男女平等度全国一になったのだと考えます。さらに女性の就業率の全国6位は当県の誇りですし、女性の経営者が多いことでは5位です。次に行政の分野では、手前味噌になりますが、女性の管理職登用率は2位です。1位は東京都ですが、鳥取県は日本で一番小さい県庁で、管理職ポストは500そこそこしかない所で就任5年目の私も意欲的に男女共同参画を実現してきましたが、なんととっても鳥取の女性の頑張りに負うところ大です。審議会の委員の男女比も徳島に次いで2位です。防災会議も2位です。オリンピックの日本と同じで、銀メダルが多いです。ちょっと前に蓮舫大臣(当時)が「なぜ二番じゃいけないんですか?」と言っていました。これでいいのかなと思います。全部足していくとナンバー1になるということです。ぜひその辺も、見ていただければと思います。

鳥取県は子育て王国です。県が子育て家庭への医療費を助成しており、軽減率は全国ナンバー1です。不妊治療の助成、あるいは地域子育てセンター、小児科医の数なども頑張っており、全国1位です。こういうことを積み上げて参画を進めているとご理解いただけたらと思います。イクメンプロジェクトも進めています。ファザーリングの全国フォーラムが今秋鳥取で開催されます。

DV被害者支援のみもぎの会も、支援を求めてこられる方々は他県の方であってもなんとか助けようと頑張っておられます。DV被害者支援なら鳥取県だというふうにいわれて、どんどん費用が膨らんでいきますが、必要な予算額はわずかです。その辺りを皆様にご理解願えればと思います。

男女共同参画の学習では教育委員会を中心にいろんな事を進めております。また、三世以上同居のために床面積が240㎡を超える大きな住宅を取得した場合に、不動産取得税を減免する措置を鳥取県独自で行っています。みんなで仲良く暮らす中で、協力して子育てできる体制をつくっていかうというものです。

皆で支える町づくりを進めようと、県としても基金を設立しました。地域サポートネットワークとっとり、これは「Comodo」という子育てのスペースを鳥取市のまちなかに作りました。「エルフィス」、これは米子市のほうで、「鳥取ふれあい共生ホーム」というものもあります。こういったものを県で支援しております。

また鳥取県力創造運動推進基金を使いまして、子育てびよびよスクール事業、「森のようちえん」という事業を始めました。智頭町という山の中で、先般ここにYMOの坂本龍一さんが来られました。坂本さんと提携して子どもを森の中で育てようと県は後押しをしています。大山のふもと伯耆町でも始めました。そうすると県外からも入りたいと来るのです。

男女共同参画推進企業認定数も500社くらいまで伸びています。6次産業化では女性達が頑張っておられ、琴浦ではとまとフレンズ、今ミニトマトを使ったトマトケチャ

ップが体に良いということで大売れです。また、おしゃれなビジネスをされている起業家福嶋登美子さんや皆生温泉にある「つるや」旅館の宇田川富美江さんをはじめ、女性たちの活躍が目立ちます。

また10月には北東アジア男女共同参画交流フォーラムを開催します。モンゴル、中国、ロシア、韓国とつながるために元気な女性のネットワークがやっておられます。私は、圧倒されて県は補助金を出しているだけです。それでいいんですよね、それが役割分担だと思います。みなさんのところでも、こういうDNAを広めていただきたいと思っています。

ここ倉吉市はいまお祭りをしております。打吹まつりです。昨日はみつぼし踊りをされていて、今晚は花火大会があります。日本中がオリンピックで忙しいでしょうが、もう一泊していただきますと花火が見られます。ぜひ倉吉を、鳥取を楽しんで行ってください。そして、皆様にぜひ、この集いを全国へ、とつなげていただきたいと思っています。私たちの人生は塗り替えられるのです。再度申し上げます。決意と行動だと思います。

今日は本当にありがとうございました。〔完〕